

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう!岩手 つながろう!岩手 第 166 号 令和 2 年 10 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント開催

釜石市

KAMAISHI

令和 2 年 10 月 9 日 (金) から 10 日 (土) までの 2 日間、釜石市内で「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント」が開催されました。

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会岩手・釜石開催のレガシーを継承し、「ラグビー県いわて」、「ラグビーのまち釜石」の定着及び情報発信を行うとともに、昨年大会での熱気や感動を振り返りながら、県民・市民が“ワンチーム”となって未来への希望を紡ぐ機会となりました。

釜石市民ホール (TETTO) では、「いわて・かまいしファンゾーン」として昨年のフィジー対ウルグアイ戦を大型画面で観戦できるパブリックビューイング、報道記録で 1 年前の興奮を振り返るメモリアル展、ラグビー日本代表選手等によるトークイベントなどが行われました。

また 10 日 (土) には、釜石鶴住居復興スタジアムで、釜石シーウェイブス対クボタスピアーズ (トップリーグ所属) の「メモリアルマッチ」

が行われました。新型コロナウイルス感染症対策として、観戦席数を上限の半数である 3,000 席としたほか、大声での応援等を自粛しての開催となりましたが、観客は大きな拍手で選手を応援していました。

■問い合わせ：

岩手県文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室
☎ 019-629-6798



いわて・かまいしファンゾーン



トークイベントの様子



メモリアルマッチの様子

災害公営住宅で郷土芸能披露

大槌町

OTSUCHI

令和 2 年 9 月 20 日 (日)、大槌町の末広町町営住宅 (災害公営住宅) において、県の郷土芸能を通じた被災地コミュニティ形成支援事業によって招待された「白澤鹿子踊」、「向川原虎舞」、「松の下大神楽」の 3 団体が郷土芸能を披露しました。

この催しは、災害公営住宅等において、郷土芸能の発表の場を設け、出演者や入居者等の交流を進めることを目的とし、県と末広町町営住宅自治会が連携して準備を進めてきたものです。

開催当日は、災害公営住宅の住民

だけでなく、近隣の住民も多く参加し、太鼓や笛、おはやしの音に合わせて、手拍子を取りながら会話や踊りを楽しみました。新型コロナウイルス感染症の影響で披露の場を失っ

た郷土芸能団体にとっても、練習の成果を発表する舞台となりました。

■問い合わせ：

岩手県復興局生活再建課
☎ 019-629-6926



白澤鹿子踊



向川原虎舞



松の下大神楽

町営住宅前の広場で郷土芸能を披露する団体

いわて復興応援団 (員) 大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録
無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員 (個人) と応援団 (法人及び団体) の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取組や観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

復興支援に感謝 バナーボード&リーフレット完成

岩手県では、東日本大震災津波から10年の節目を控え、震災の記憶とこれまでの御支援への感謝を国内外に伝えるため、被災地からの復興支援への感謝メッセージ等を掲載した「復興支援感謝発信バナーボード」及び「感謝発信リーフレット」を制作しました。

バナーボードは、4種類あり、沿岸地域の方々や「いわての学び希望基金」を活用し奨学金等を受けた子どもたち、東日本大震災津波伝承館の来場者等から、県に寄せられた様

々な復興支援感謝メッセージを掲載しています。今後、県が開催する復興情報発信イベントや震災伝承施設等で巡回展示します。

また、リーフレットは、これまでの岩手の復興の歩みをまとめた年表や震災伝承施設、復興の取組を三陸沿岸のマップ形式等で掲載し、全8ページで構成しています。県内の伝承施設、道の駅などで配架しているほか、各種復興イベント等で入手できます。

なお、バナーボード及びリーフレット

については、県ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

バナーボードはこちら



リーフレットはこちら



■問い合わせ：岩手県復興局復興推進課
☎ 019-629-6945



復興支援感謝発信バナーボード



感謝発信リーフレット

つなみ

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI (つなみ) メモリアル) を紹介します。

なお、現在新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開館しております。

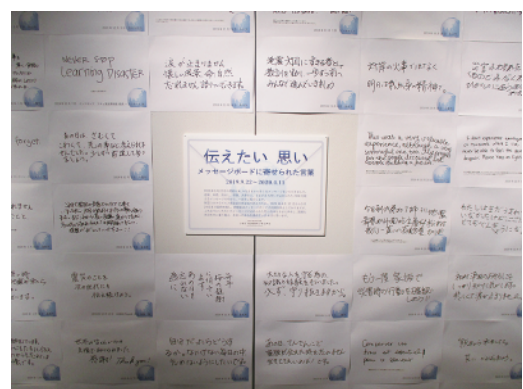
令和2年9月22日(火)、東日本大震災津波伝承館は、開館1周年を迎えました。

東日本大震災津波の事実と教訓の伝承を目的として、昨年9月に開館した伝承館には、9月末時点で22万人を超える方々にご来館いただき、「秋分の日」の22日を含む連休中も、県内外から家族連れや団体等多くの方々が映像や被災物等の展示を見学し、解説員の説明に耳を傾けていました。

伝承館では、開館1周年に合わせて、復興への思いや御支援への感謝を共有するため、これまでに7,000人以上の来館者から寄せられたメッセージの一部を紹介する特別展「伝えたい思い～メッセージボードに寄せられた言葉～」を開催しました。展示物には、インドネシアやハワイの海外津波博物館の館長や、陸前高田市出身の俳優である村上弘明氏、ガイダンスシアターのナレーションを務めていただいた岩手県出身の声優である桑島法子氏などの言葉も並び、多くの方々がメッセージの前で足を止め、熱心に見つめていました。

開館2年目を迎えた伝承館では、震災から10年を控え、来館者の方々が安全で安心して見学できるように感染症対策を徹底し、引き続き震災津波の事実と教訓を伝えていきますので、ぜひご来館ください。

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



開館1周年 特別展「伝えたい思い」の様子

東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、陸前高田市の郷土芸能「陸前高田 川原祭組」について、佐々木 芳勝さんに伺いました。



陸前高田 川原祭組 会長
佐々木 芳勝 さん

毎年8月7日に行われる「うごく七夕まつり」は、華やかな装飾を施した高さ約6mの山車(だし)の上で太鼓を叩き、笛を奏でながら、昼夜、町内を練り歩く祭りです。

この祭りは、亡くなられた方々の霊を鎮魂するために、400年ほど前より受け継がれてきたとされています。

私たちの住む高田町川原(かわら)地区には、230の世帯がありましたが、全てが震災による津波で流され、残ったのは高台にあったお寺のみでした。

町内会には「川原七夕祭組」という、うごく七夕まつりを運営する組織がありましたが、震災によって住民はこの地を離れ、ばらばらの暮らしを余儀なくされ、町内会自体が解散するとともに、「川原七夕祭組」も解散するかどうかの判断を迫られました。

その中で、せめて祭りだけは残したいとの思いから、改めて「川原祭組」という組織を立ち上げ、活動を継続することにしました。

震災では、大太鼓二つと、土車(どぐるま)と言う山車の土台の部分だけを残し全てを失いました。その年の夏、山車は出せませんでした。太鼓の演奏だけを行い、その後、いろいろな方から支援を受け、翌年の8月には山車を復活させ、うごく七夕祭りを再開することができました。

私たちは、生まれ育った“ふるさと”を無くしましたが、今は、この祭りとこの山車が私たちの“ふるさと”です。川原地区を離れた人も帰ってくる場所として、この祭りを継続していきたいと思えます。



飾り付けられた「川原祭組」の山車
(写真提供: 川原祭組)



「川原祭組」のメンバー
(写真提供: 川原祭組)



さんりくイベント情報



EVENT

田老ふるさと物産市

宮古市
MIYAKO

「第41回宮古市田老鮭あわびまつり」の代替イベントとして、特産の生鮭やアワビ、海産物等の販売が行われます。

※ 鮭・アワビの販売は、水揚げ状況により中止となる場合があります。

- 期 日: 11/22(日)
- 場 所: 田老野球場駐車場
- 問い合わせ: 田老観光イベント実行委員会
(宮古市田老総合事務所地域振興係)
☎ 0193-87-2971

かまいし軽トラ市

釜石市
KAMAISHI

「軽トラ市」は、軽トラックの荷台に乗せた商品を直接販売する“市”です。

今回で3回目となる「かまいし軽トラ市」は、市内の農家が作った野菜、果物の農産物のほか、漬物、お菓子等の加工品が販売されます。

- 期 日: 11/22(日)
- 場 所: 釜石市役所前駐車場
- 問い合わせ: 釜石市農林課 ☎ 0193-27-8426

三陸鉄道 震災学習列車

釜石市・宮古市
RIKUZENTAKATA

釜石鵜住居から宮古までの震災学習列車と貸切バスを利用して宮古魚市場等を巡る日帰りツアーです。復興が進む三陸沿線の街並みと被災地の基幹産業である漁業・水産業の現場を知ることができる特別企画です。

- 期 日: 11/14(土)
- 募集人員: 24名(最少催行20名)
※ 18歳以上の方限定となっております。
- 募集開始: 10月28日(水)から
- 問い合わせ: 三陸鉄道(株) 旅客営業部 ☎ 0193-62-7000

三陸ぐるっと食堂in陸前高田

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

今回で6回目となる「三陸ぐるっと食堂」は、三陸の豊かな食材や食文化を体験できる食のイベントで、ご当地のグルメを通して地域の魅力を発信しています。

- 期 間: 11/14(土) ~ 11/15(日)
- 場 所: アバッセたかた駐車場
- 問い合わせ: 三陸ぐるっと食堂in陸前高田実行委員会
(岩手県沿岸広域振興局経営企画部産業振興室)
☎ 0193-25-2718

* 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・変更になる場合があります。予め、問い合わせ先にご確認ください。



普代村の「ネダリ浜自然歩道」は、打ち寄せる波の音を聞きながら、リアス海岸のダイナミックな景観を楽しめるトレッキングの新名所です。



ネダリ浜
(写真提供：普代村)



ネダリ浜自然歩道
(写真提供：普代村)

「ネダリ浜自然歩道」は、令和元年6月に全線開通した総延長1,025kmの「みちのく潮風トレイル」(青森県八戸市から福島県相馬市までの三陸沿岸を1本でつなぐ自然歩道)のルートの一部です。

普代村の景勝地である黒崎展望台の眼下にあるネダリ浜から黒崎漁港を結ぶ「ネダリ浜自然歩道」は、荒波が打ち

つける断崖下に作られた約1kmの遊歩道で、岩場の波打ち際から美しい自然を堪能できる人気のコースです。

“ネダリ”という名称は、アイヌ語で「流木溜りの・高岸の所」を意味する“ネッ・タオル”が語源であるとする説があり、打ち寄せる波の音を聞きながら、海に切り立つ断崖を望むことができます。

*海が荒れている時や波が高い場合は、無理をせず迂回してください。



■問い合わせ：普代村農林商工課 ☎0194-35-2111 (代表)

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第112回は、プロヴォ イザベルさんを紹介합니다。

PROFILE

フランス出身。幼少の頃に空手を習い始め、日本に興味を抱き、大学時代には日本に留学する。

東日本大震災津波発災後は東京で働く傍ら、大船渡市でボランティア活動を行う。

2019年に大船渡市の地域おこし協力隊に着任し、観光関係の業務に携わる。

初めて大船渡を訪れて

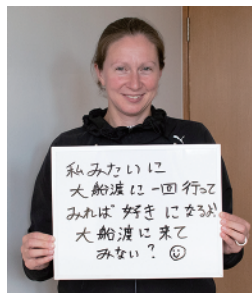
東京の金融会社で新人研修を担当していたイザベルさんは、震災発生時、東京の六本木ヒルズの42階にいました。

震災の様子をテレビで見て、自分にも何か手伝えることがあるだろうと思い、イザベルさんは、ボランティア団体を探している中で、大船渡で活動している海外の団体を選びました。

「テレビで見えても辛い状況だったのに、実



大船渡市 地域おこし協力隊
PROVOST ISABELLE さん
(プロヴォ イザベル)



私みたいに大船渡に一回行って見れば好きになるよ！大船渡に来てみない？

際に大船渡に来て、津波に襲われた地域を歩いてみると、想像以上にひどい状況にショックを受けたことを覚えています。」とイザベルさんは当時を振り返ります。

大船渡ファンを増やすために

「ボランティアとして大船渡を訪れるたびに大船渡に住みたいという気持ちが強くなり、自分がどういう形で貢献できるか悩みました。その中で、大船渡市が“地域おこし協力隊”を募集していることを知り、大船渡に移住することを決意しました。」とイザベルさんは、好きになった大船渡での生活をスタートさせました。

イザベルさんは現在、同市三陸町綾里で、「恋し浜マリアージュ」と銘打ったホタテの養殖を見学するクルーズに加え、船の上でホタテとワインを楽しめるプロジェクトも進めています。「個人や家族での観光の中、大船渡の心地よさを感じ、地元の人と交流することで、大船渡のファンになってもらえればと思います。」とイザベルさんは今後の活動への意欲を語ります。

岩手県の被害状況

令和2年9月30日現在

皆様のご支援、ありがとうございます

令和2年9月30日現在

▶人的被害 死者(直接死):4,674人 行方不明者:1,111人
死者(関連死):469人

▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

▶義援金受付状況 約187億4613万円(97,634件)

▶寄付金受付状況 約201億1172万円(10,262件)

▶いわての学び希望基金(※)受付状況 約102億3818万円(24,809件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。



いわて震災津波アーカイブ

検索

いわて復興だより 第166号 令和2年10月23日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6945
編集・印刷：シナプス